

調査の結果

第1節 住みごころ・定住意向について

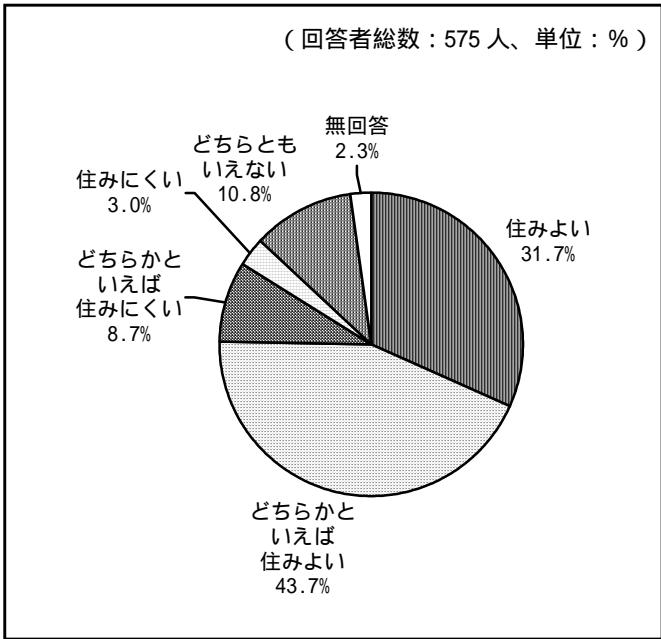
1-1 現在の住みごころ（問7）

“住みよいと思う”が7割以上。
一方、“住みにくいと思う”が約1割。

現在の住みごころをたずねたところ、「住みよい」が31.7%、「どちらかといえば住みよい」が43.7%で、あわせると“住みよいと思う”が75.4%で多くを占めています。

その一方、「どちらかといえば住みにくい」が8.7%、「住みにくい」が3.0%で、あわせると“住みにくいと思う”が11.7%です。

図 現在の住みごころ



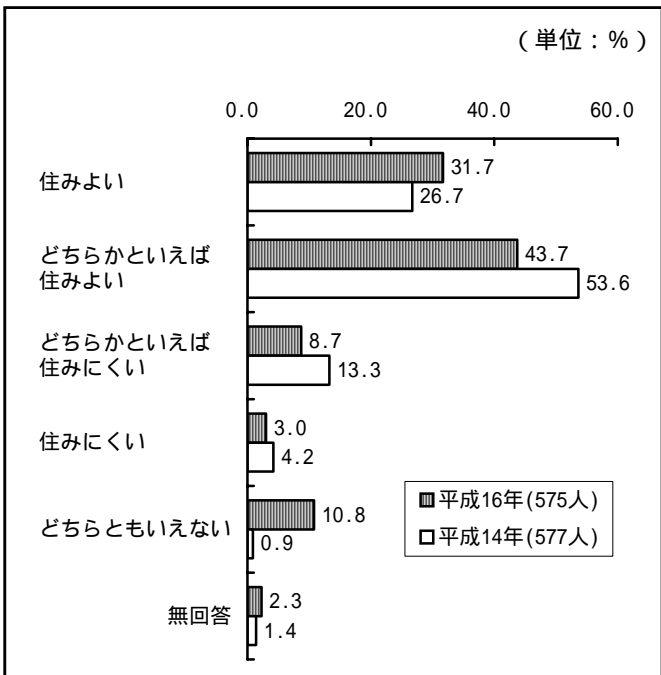
【時系列】

“住みよいと思う”が平成14年度よりも4.9ポイント減少。

時系列にみると、「住みよい」は平成14年度よりも5ポイント増えているものの、「どちらかといえば住みよい」が9.9ポイント減り、あわせると“住みよいと思う”が平成14年度には80.3%となっており4.9ポイント減っています。

その一方、「どちらかといえば住みにくい」は平成14年度よりも4.6ポイント減り、「住みにくい」が1.2ポイント減り、あわせると“住みにくいと思う”が平成14年度には17.5%となっており5.8ポイント減っています。

図 現在の住みごころ



1-2 居住地域の満足度（問8）

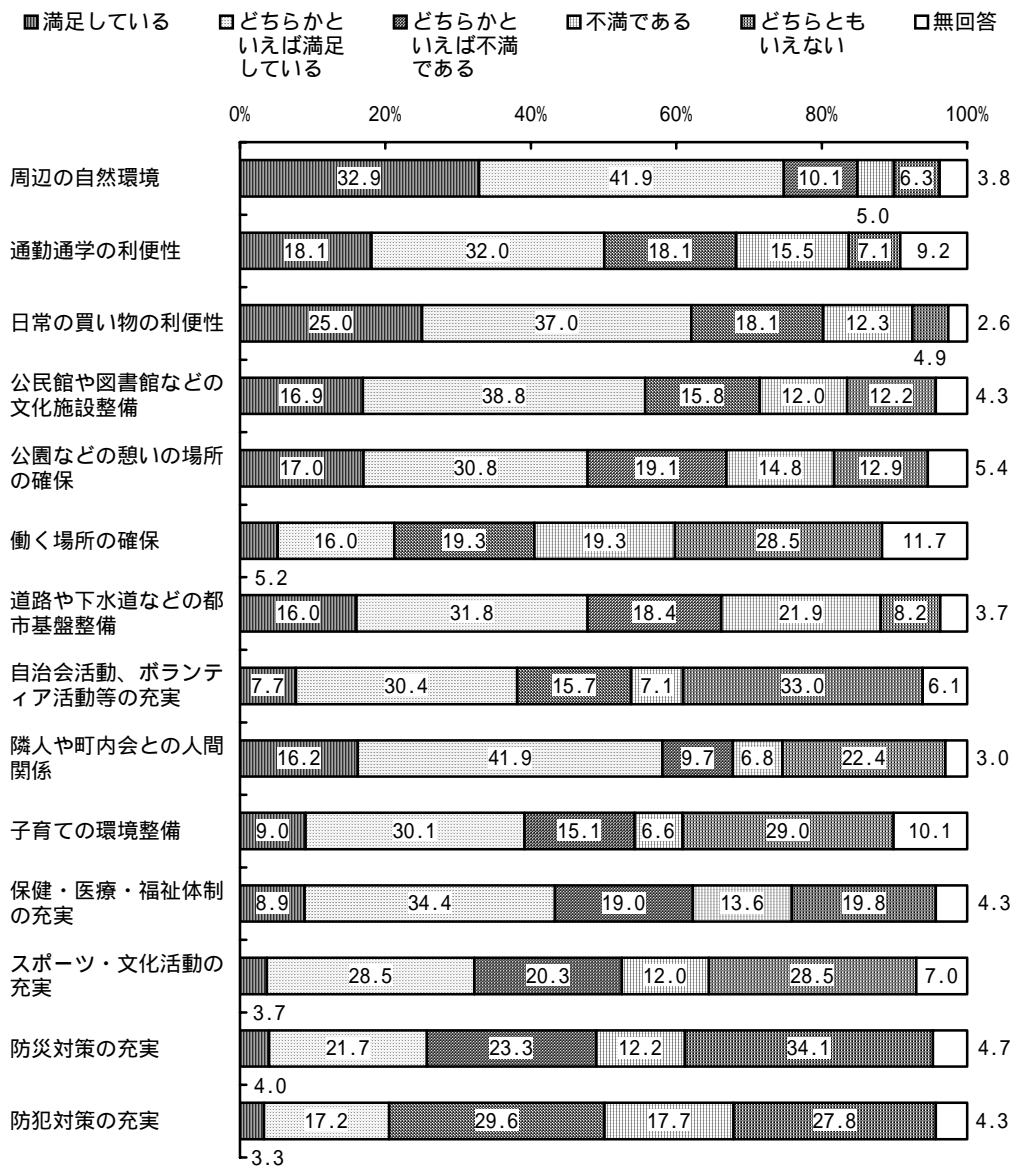
“満足”は『周辺の自然環境』が7割以上。次いで『日常の買い物の利便性』が続く。一方、“不満”は『防犯対策の充実』や『道路や下水道などの都市基盤整備』が高い。

現在の居住地域の満足度をたずねたところ、「満足している（よくなった）」と「どちらかといえば満足している（まあまあよくなった）」をあわせた“満足”の割合は『周辺の自然環境』が74.8%で特に高く、次いで『日常の買い物の利便性』が62.0%、『隣人や町内会との人間関係』が58.1%で続いています。

その一方、「どちらかといえば不満である（あまりよくなっていない）」と「不満である（よくなっていない）」をあわせた“不満”の割合は『防犯対策の充実』が47.3%、『道路や下水道などの都市基盤整備』が40.3%、『働く場所の確保』が38.6%で比較的高くなっています。

図 居住地域の満足度

（回答者総数：575人）



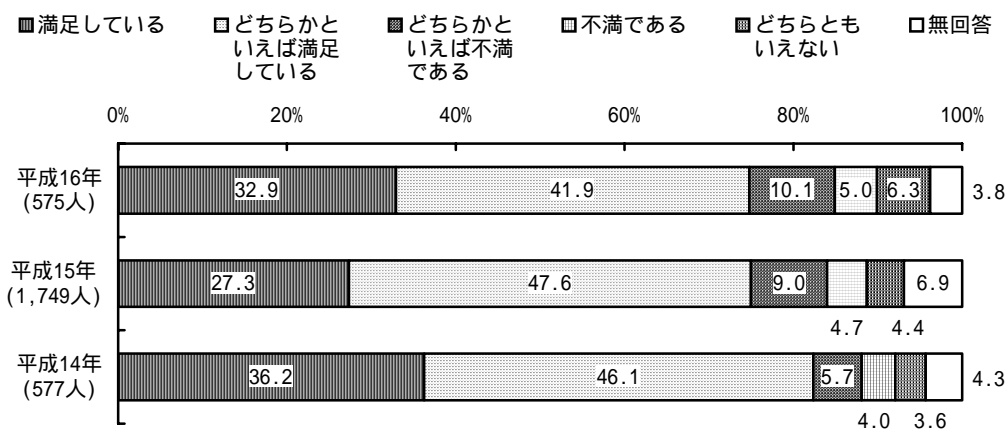
【時系列】

“満足”の割合が年々増えているのは『通勤・通学の利便性』。
 一方、“不満”の割合が年々増えているのは『公園など憩いの場所の確保』『道路や下水道などの都市基盤整備』『子育ての環境整備』。

時系列にみると、「満足している(よくなった)」と「どちらかといえば満足している(まあまあよくなった)」をあわせた“満足”の割合が年々増えているのは、『通勤・通学の利便性』(平成14年度47.6% 平成15年度49.4% 平成16年度50.1%)となっています。

その一方、「どちらかといえば不満である(あまりよくなっていない)」と「不満である(よくなっていない)」をあわせた“不満”の割合が年々増えているのは、『公園など憩いの場所の確保』(平成14年度29.4% 平成15年度31.2% 平成16年度33.9%)、『道路や下水道などの都市基盤整備』(平成14年度32.1% 平成15年度36.1% 平成16年度40.3%)、『子育ての環境整備』(平成14年度19.6% 平成15年度20.0% 平成16年度21.7%)となっています。

図ア. 周辺の自然環境



図イ. 通勤・通学の利便性

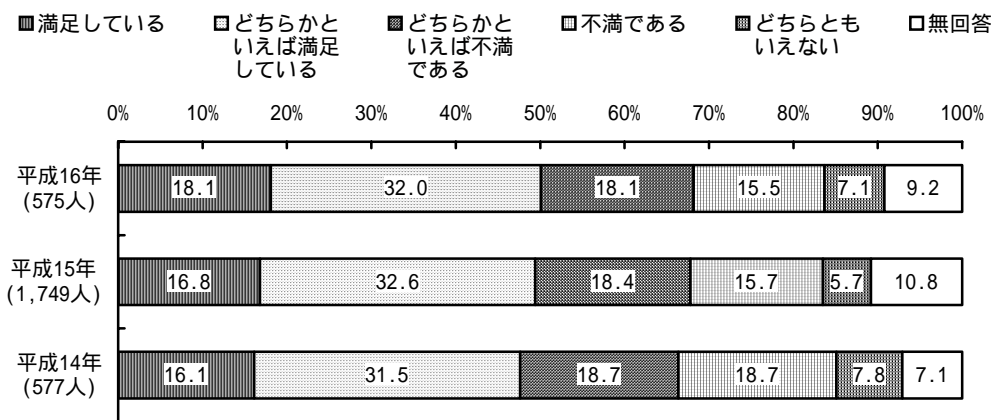


図 ウ . 日常の買い物の利便性

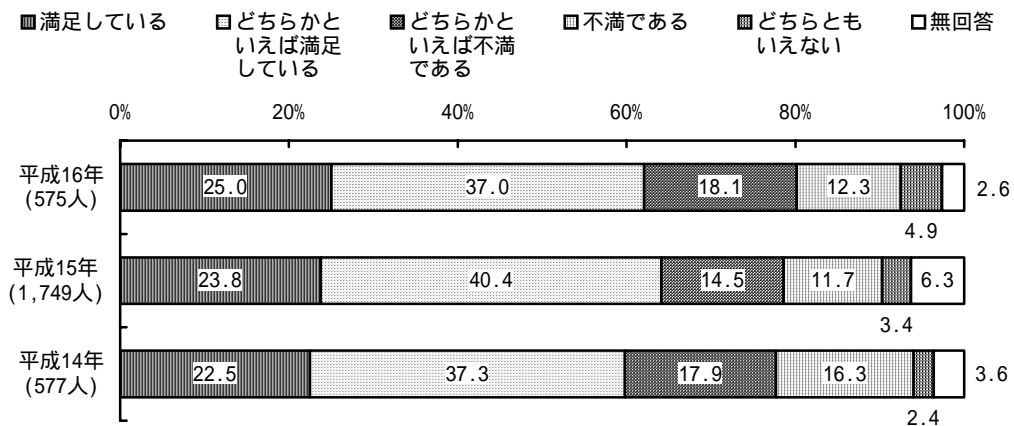


図 エ . 公民館や図書館などの文化施設整備

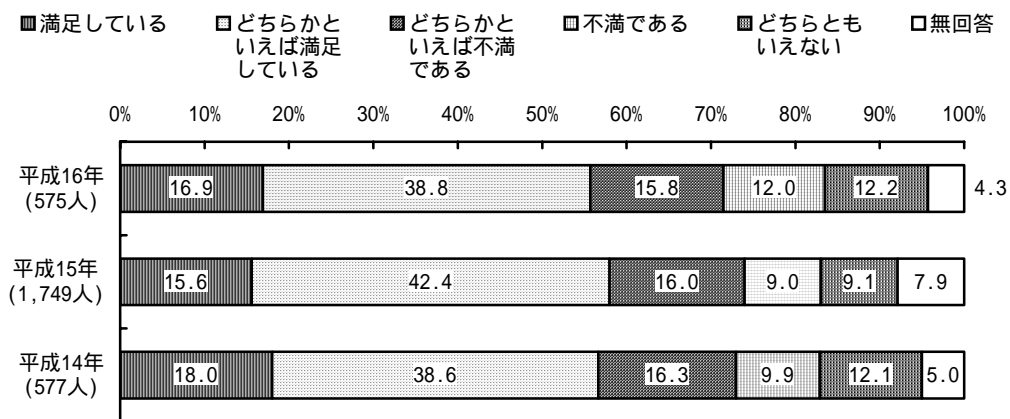


図 オ . 公園など憩いの場所の確保

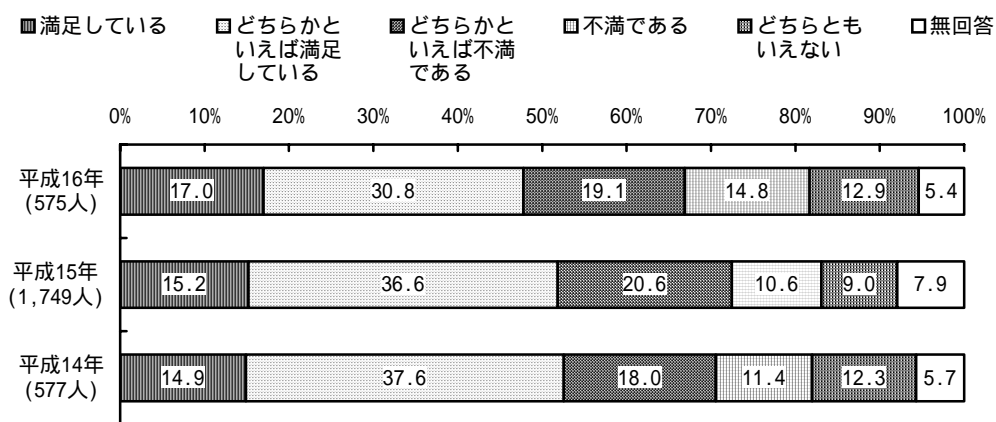


図 ケ . 働く場所の確保

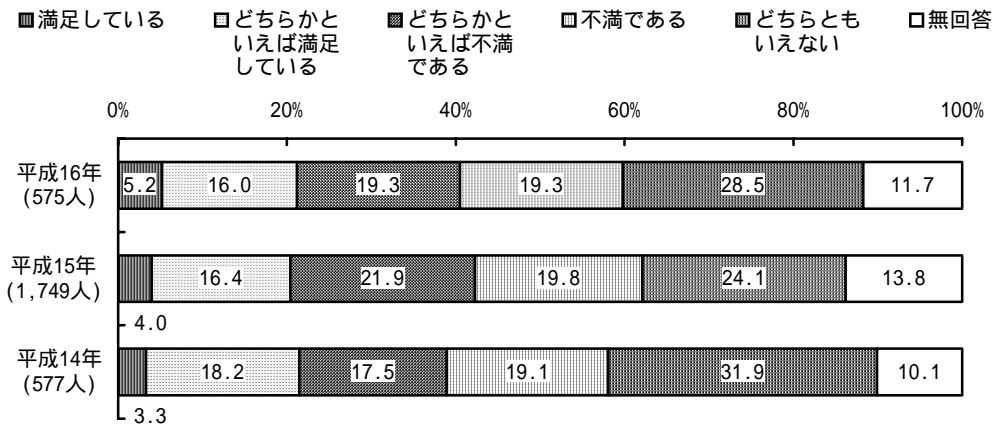


図 キ . 道路や下水道などの都市基盤整備

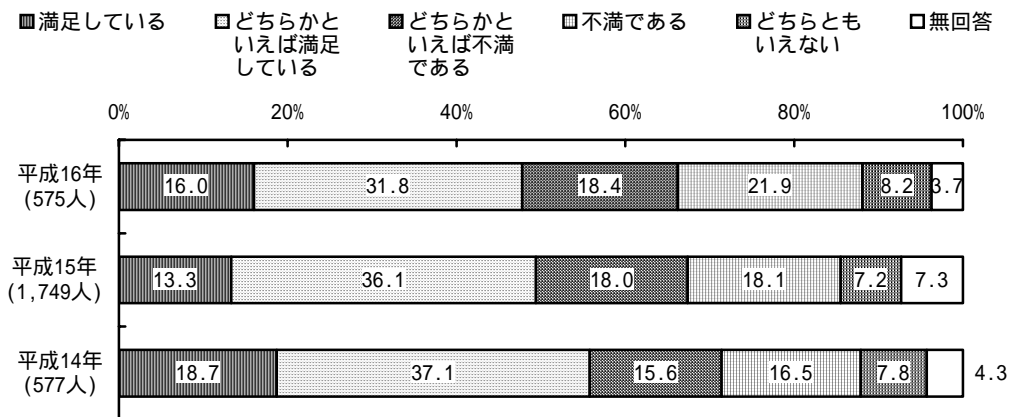


図 ク . 自治会活動、ボランティア活動等の充実

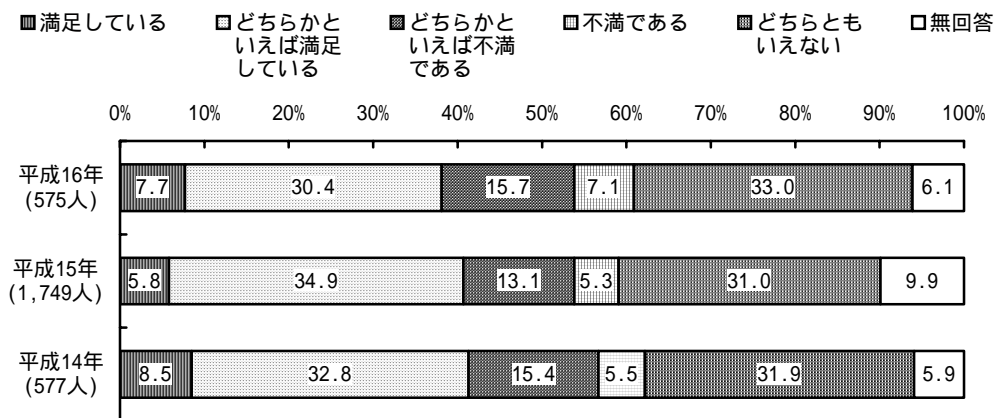


図 ケ . 隣人や町内会との人間関係

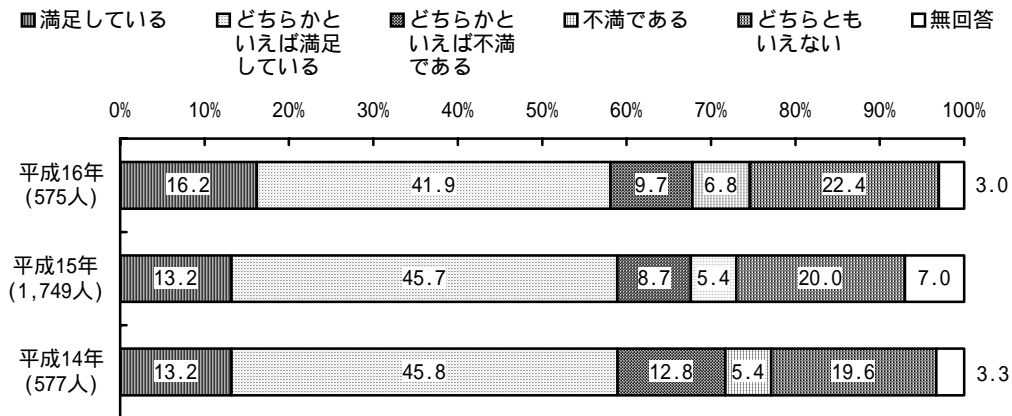


図 コ . 子育ての環境整備

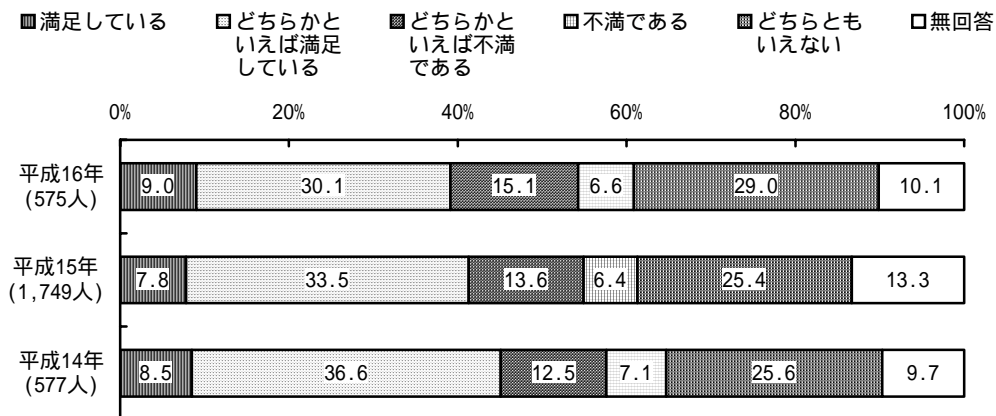
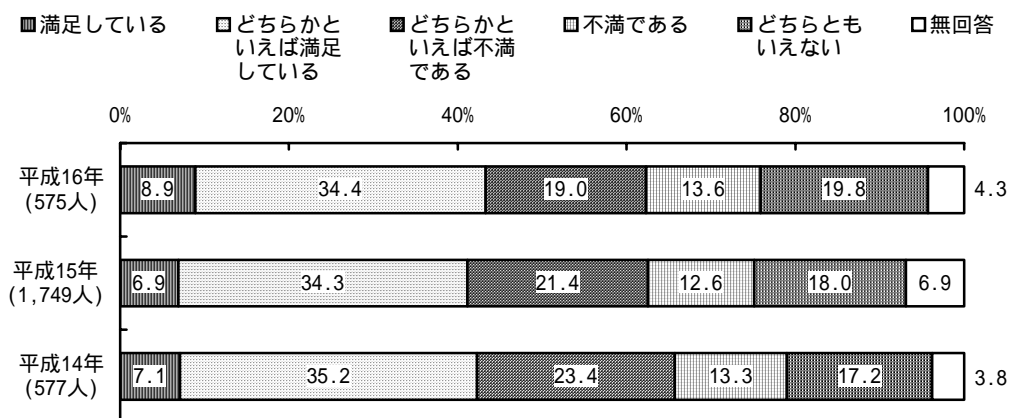


図 サ . 保健・医療・福祉体制の充実



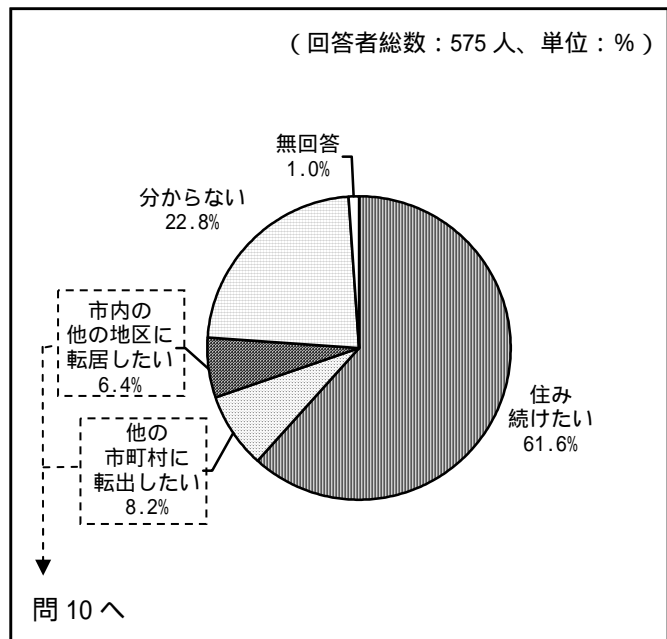
1-3 定住意向（問9）

現在の地域に「住み続けたい」が約6割。

定住意向をたずねたところ、現在の地域に「住み続けたい」が61.6%で多くを占めています。また、「市内の他の地区に転居したい」も6.4%います。

その一方、「他の市町村に転出したい」が8.2%です。

図 定住意向



【時系列】

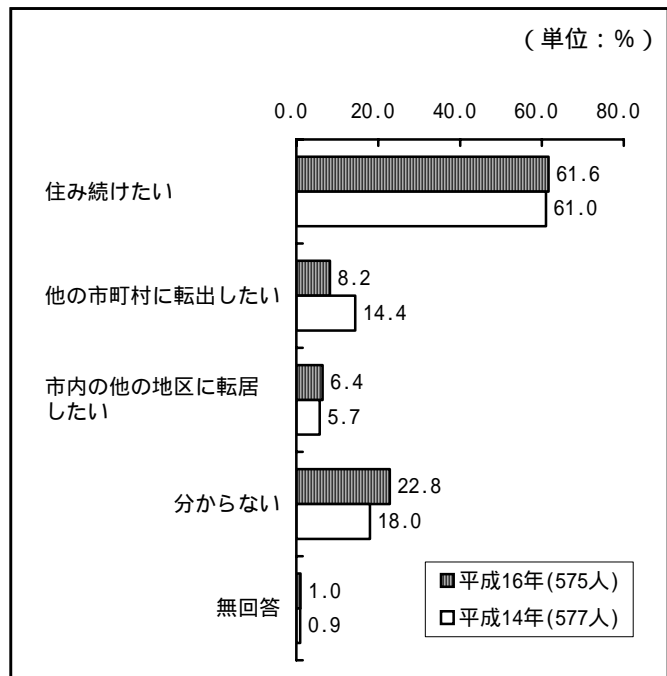
「住み続けたい」や「市内の他の地区に転居したい」は平成14年度とほぼ同様。

時系列にみると、「住み続けたい」や「市内の他の地区に転居したい」は平成14年度とほぼ同様となっています。

その一方、「他の市町村に転出したい」が平成14年度よりも6.2ポイント減っています。

また、「分からない」が平成14年度よりも4.8ポイント増えています。

図 定住意向



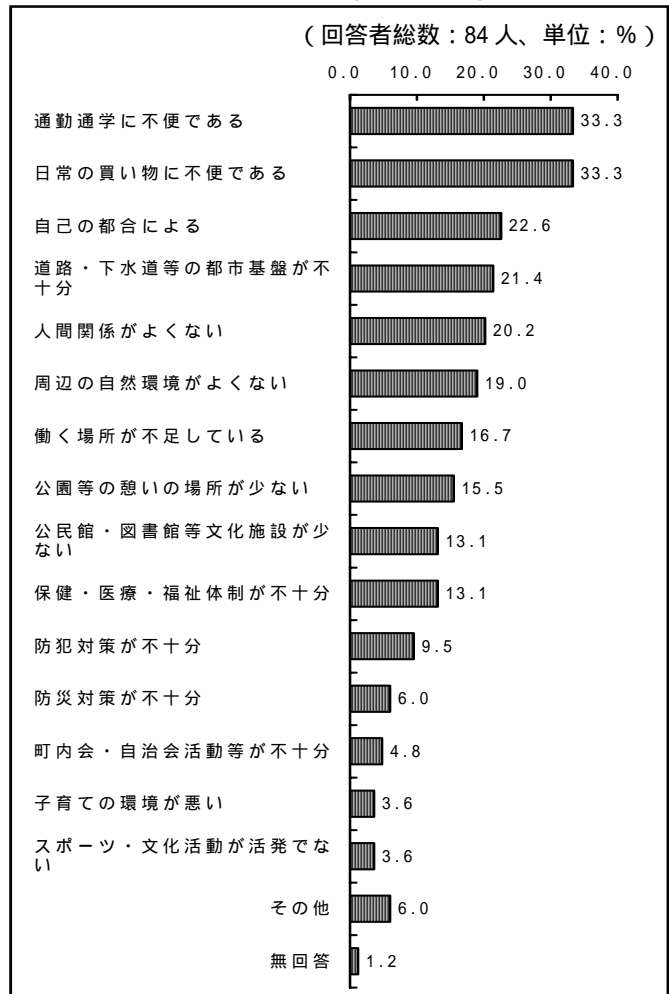
1-4 転出・転居したい理由（問10）

「通勤通学に不便である」と「日常の買い物に不便である」がともに3割程度。

定住意向で「他の市町村に転出したい」あるいは「市内の他の地区に転居したい」と回答した人に、転出・転居したい理由をたずねました。

その結果、「通勤通学に不便である」と「日常の買い物に不便である」がともに33.3%で最も高くなっています。

図 転出・転居したい理由（複数回答）

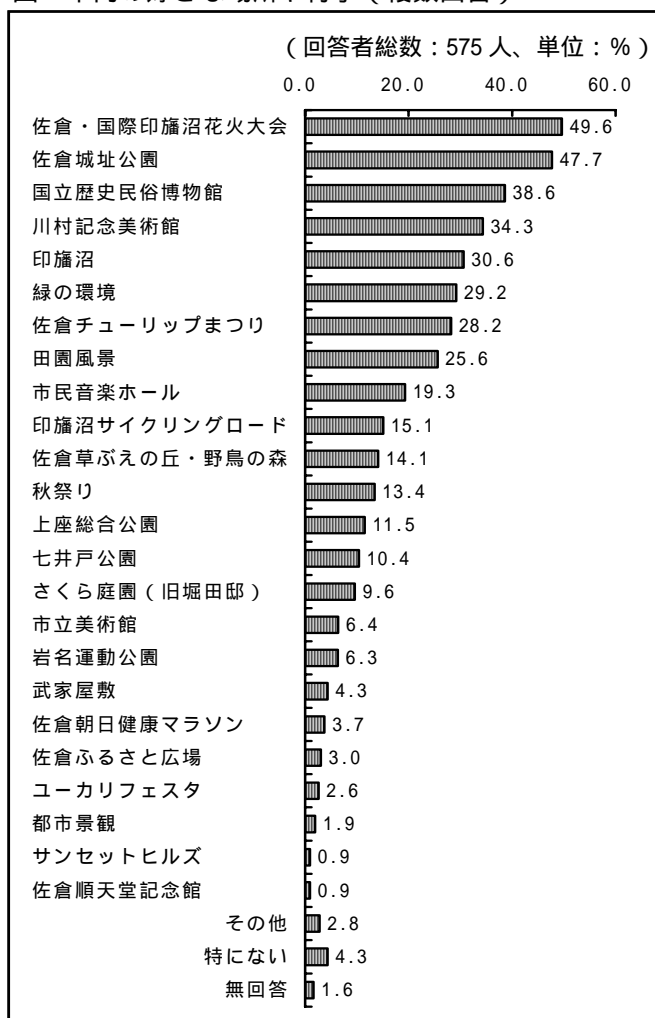


1-5 市内の好きな場所や行事（問11）

「佐倉・国際印旛沼花火大会」や「佐倉城址公園」が約5割で比較的高い。

佐倉市内の好きな場所や行事等をたずねたところ、「佐倉・国際印旛沼花火大会」が49.6%で最も高く、次いで「佐倉城址公園」が47.7%、「国立歴史民俗博物館」が38.6%で続いています。

図 市内の好きな場所や行事（複数回答）



第2節 市の施策について

2-1 以前と比較して、よくなったと思うもの（問12）

「公民館・図書館などの施設整備」が最も評価が高い。

市が行っている施策や事業等で、以前と比較して、よくなったと思うものをたずねました。

その結果、「公民館・図書館などの施設整備」が20.2%で最も評価が高くなっています。

次いで、公園や街路樹の整備などによる「緑ある街づくり」が17.7%、リサイクルを含めた「ごみ処理体制の充実」が17.4%で続いています。

図 以前と比較して、よくなったと思うもの（複数回答）



2-2 今後、特に力を入れてほしいもの（問12）

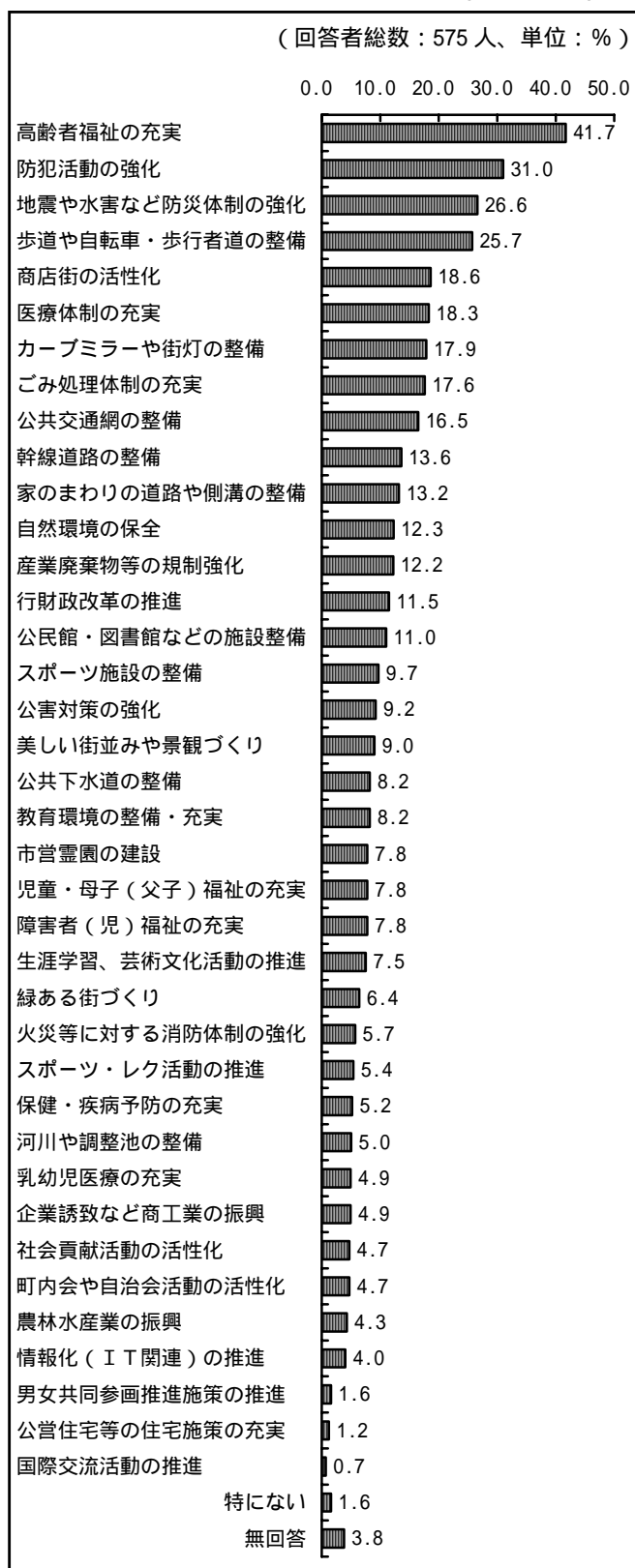
「高齢者福祉の充実」が4割で高い。

市が行っている施策や事業等の評価と同様の選択肢で、今後、特に力を入れてほしいものをたずねました。

その結果、「高齢者福祉の充実」が41.7%で、特に高くなっています。

次いで、「防犯活動の強化」が31.0%、「地震や水害など防災体制の強化」が26.6%で、比較的高くなっています。

図 今後、特に力を入れてほしいもの（複数回答）



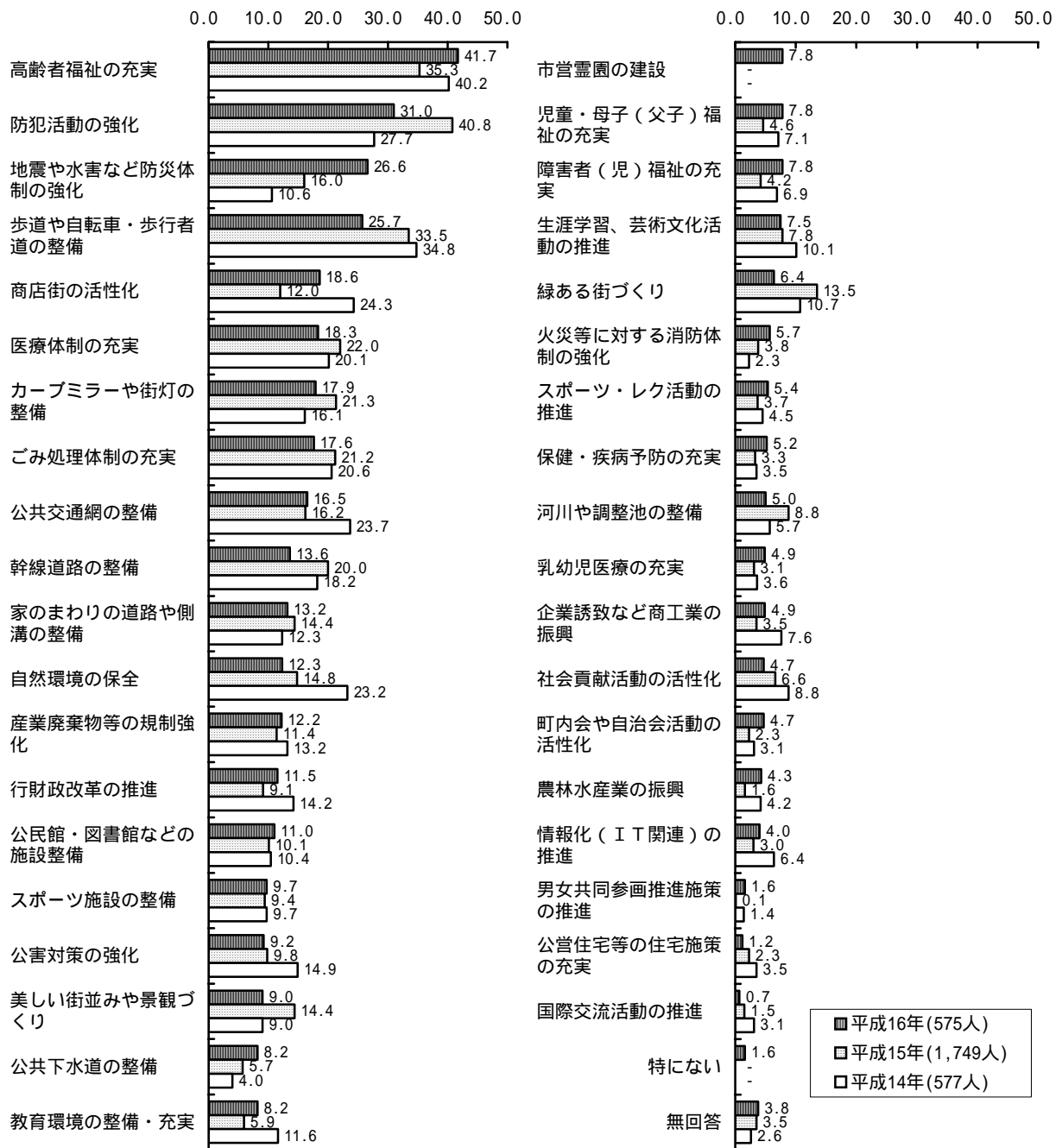
【時系列】

「地震や水害など防災体制の強化」が平成 15、14 年度よりも 1 割以上増加。

時系列にみると、「地震や水害など防災体制の強化」が平成 15、14 年度よりも 1 割以上増えています。

さらに、平成 15、14 年度よりも高い割合を占めたものをみると、「高齢者福祉の充実」「公民館・図書館などの施設整備」「公共下水道の整備」「児童・母子(父子)福祉の充実」「障害者(児)福祉の充実」「火災等に対する消防体制の強化」「スポーツ・レク活動の推進」「保健・疾病予防の充実」「乳幼児医療の充実」「町内会や自治会活動の活性化」「農林水産業の振興」「男女共同参画推進施策の推進」の 12 項目となっています。

図 今後、特に力を入れてほしいもの(複数回答) (単位: %)



第3節 道路環境について

3-1 市内の道路環境について（問13）

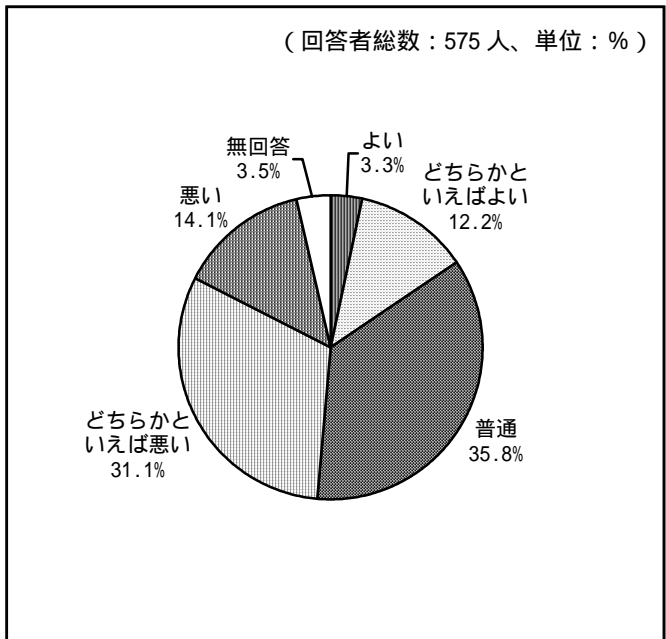
“よいと思う”が約2割。
一方、“悪いと思う”が約5割。

佐倉市の道路環境についてたずねたところ、「よい」が3.3%で、「どちらかといえばよい」の12.2%をあわせた、“よいと思う”が15.5%です。

その一方、「どちらかといえば悪い」が31.1%で、「悪い」の14.1%をあわせた“悪いと思う”が45.2%を占めています。

また、「普通」が35.8%です。

図 市内の道路環境について

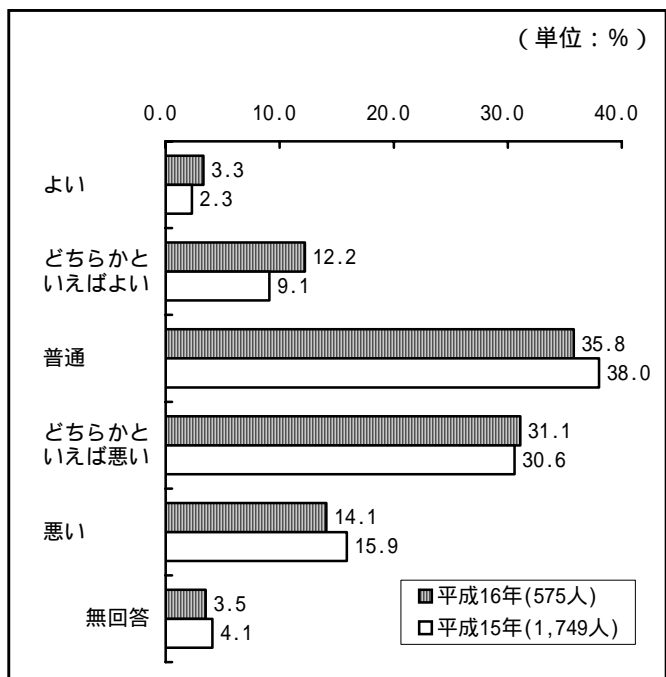


【時系列】

“よいと思う”が平成15年度よりも4.1ポイント増加。

時系列にみると、“よいと思う”が平成15年度よりも4.1ポイント増えています。

図 市内の道路環境について



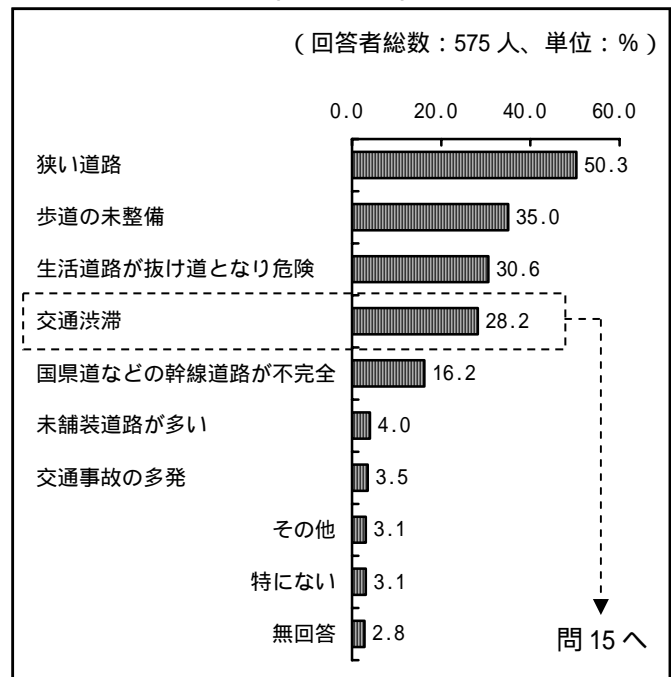
3-2 市内の道路問題（問14）

「狭い道路」が5割で最も高く、次いで「歩道の未整備」、「生活道路が抜け道となり危険」。

市内の道路の問題についてたずねたところ、「狭い道路」が50.3%で最も高くなっています。

次いで、「歩道の未整備」が35.0%、「生活道路が抜け道となり危険」が30.6%が続いています。

図 市内の道路問題（複数回答）

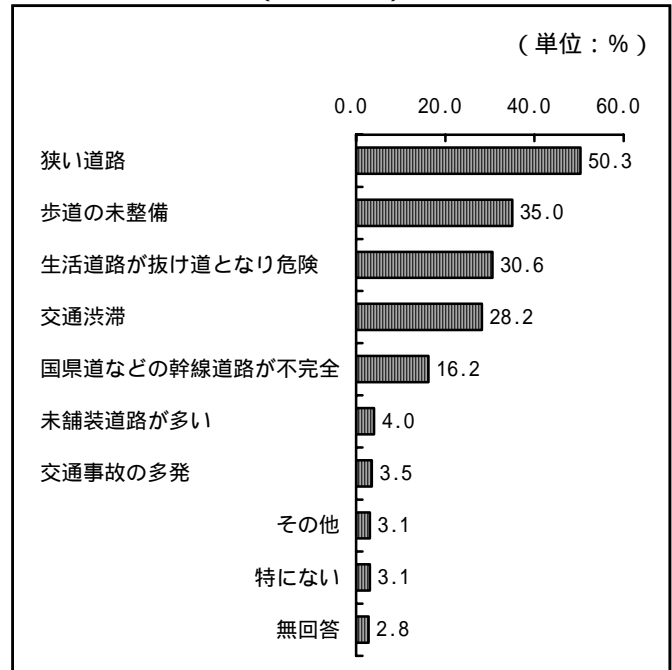


【時系列】

「狭い道路」「生活道路が抜け道となり危険」「国道などの幹線道路が不完全」が平成15年度よりも高い割合を占める。

時系列にみると、平成15年度よりも高い割合を占めたものをみると、「狭い道路」「生活道路が抜け道となり危険」「国道などの幹線道路が不完全」となっています。

図 市内の道路問題（複数回答）



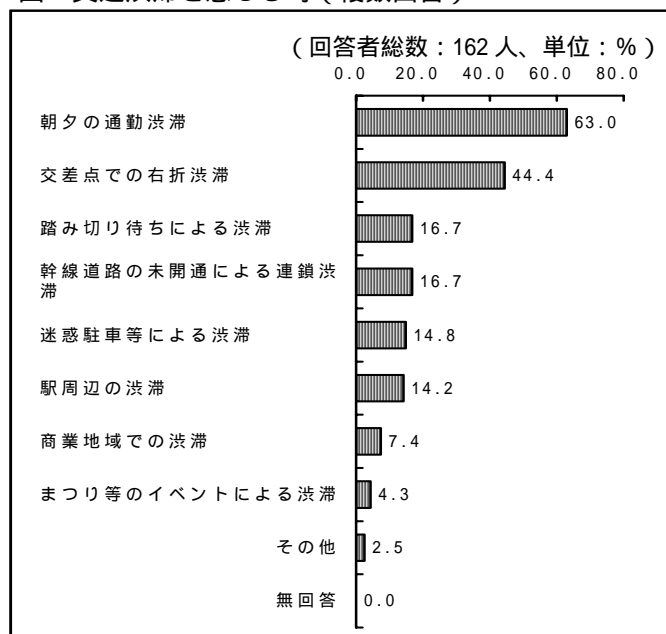
3-3 交通渋滞を感じる時（問 15）

「朝夕の通勤渋滞」が6割以上。

市内の道路問題を「交通渋滞」と回答した人に、どんな時に交通渋滞を感じるか、たずねました。

その結果、「朝夕の通勤渋滞」が63.0%で特に高く、次いで「交差点での右折渋滞」が44.4%で比較的高くなっています。

図 交通渋滞を感じる時（複数回答）



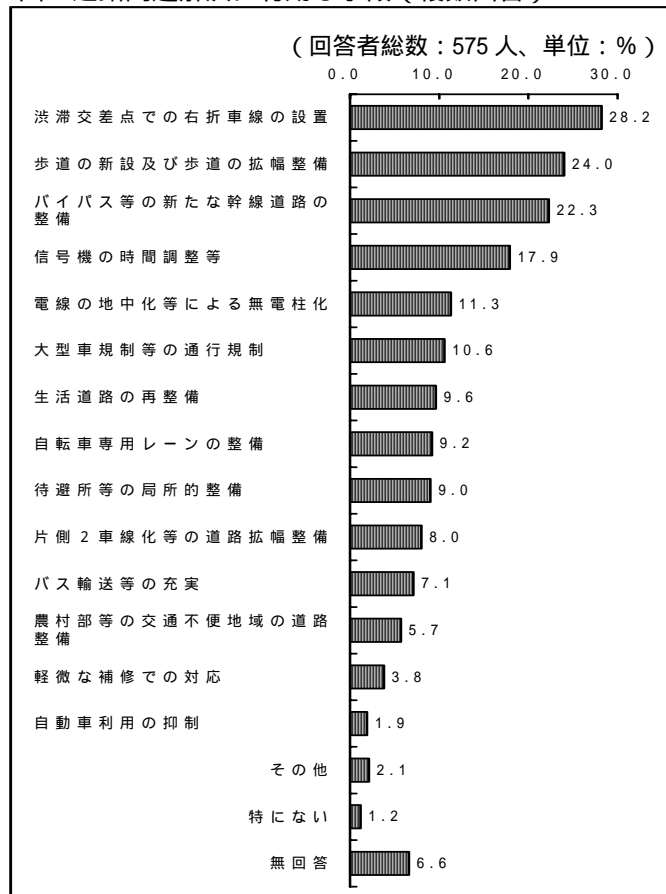
3-4 道路問題解決に有効な手段（問 16）

「右折車線の設置」が高く、次いで「歩道の新設及び歩道の拡幅整備」、「バイパス等の新たな幹線道路の整備」が続く。

市内の道路問題解決に有効な手段をたずねたところ、「渋滞交差点での右折車線の設置」が28.2%で最も高くなっています。

次いで、「歩道の新設及び歩道の拡幅整備」が24.0%、「バイパス等の新たな幹線道路の整備」が22.3%が続いています。

図 道路問題解決に有効な手段（複数回答）



第4節 廃棄物行政について

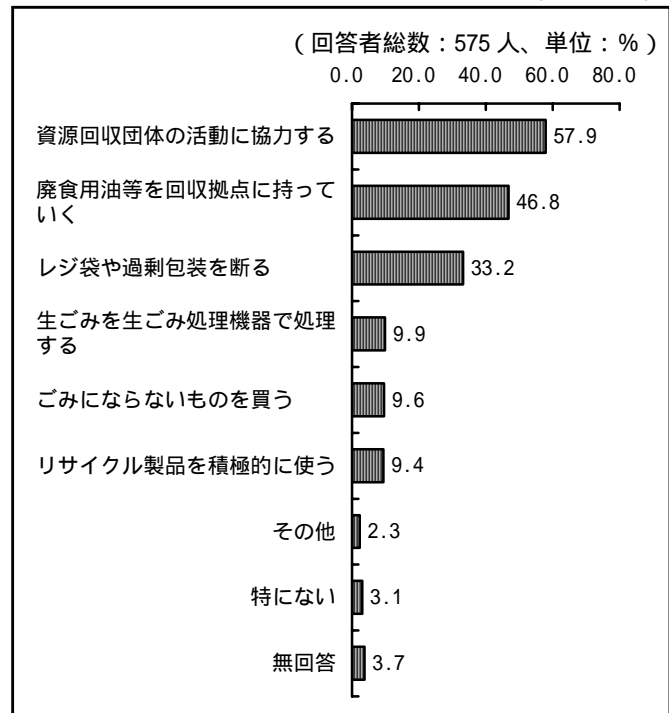
4-1 ごみ減量やリサイクルで取り組んでいること（問17）

自治会や子ども会等の「資源回収団体の活動に協力する」が約6割。

ごみ減量やリサイクルに関して、各家庭で取り組んでいることをたずねたところ、自治会や子ども会等の「資源回収団体の活動に協力する」が57.9%で最も高くなっています。

次いで、ペットボトルや廃蛍光管、「廃食用油等を回収拠点に持っていく」が46.8%、「レジ袋や過剰包装を断る」が33.2%で続いています。

図 ごみ減量やリサイクルで取り組んでいること（複数回答）



4-2 ごみ収集の有料化について（問18）

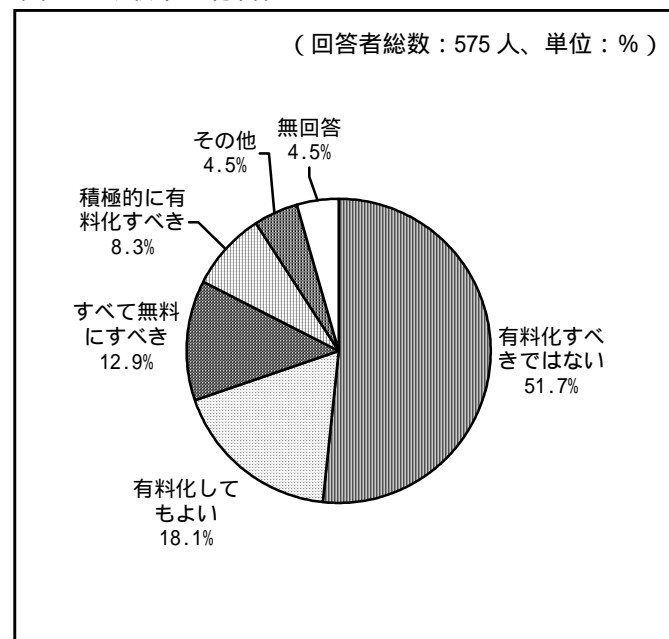
“有料化に理解”が26.4%。

全国的に、家庭ごみの収集を有料化する流れになっています。

ごみの収集の有料化についてたずねたところ、「有料化すべきではない」が51.7%で半数を占めます。

その一方で、「有料化してもよい」が18.1%で、「積極的に有料化すべき」の8.3%をあわせると、“有料化に理解”が26.4%です。

図 ごみ収集の有料化について

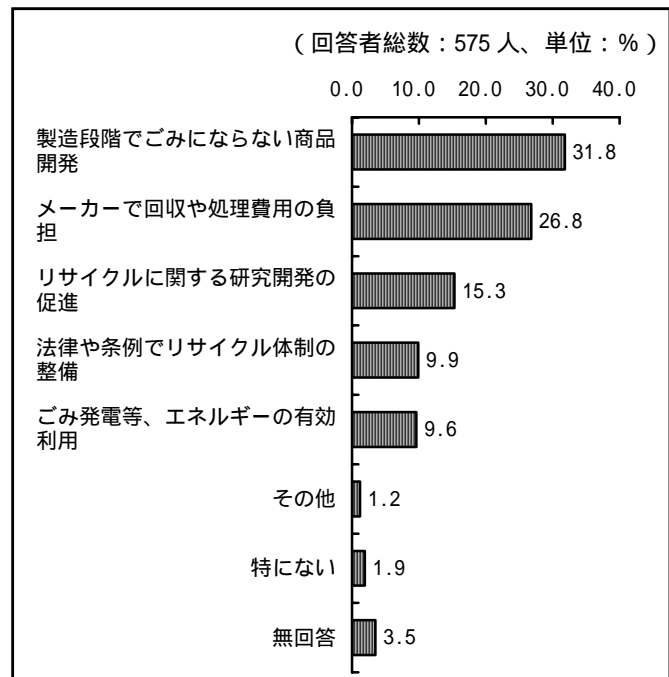


4-3 国やメーカーに望むこと（問19）

「製造段階でゴミにならない商品の開発」が約3割を占める。

家庭ゴミについて、今後、国やメーカー等に特に望むことをたずねたところ、「製造段階でゴミにならない商品の開発」が31.8%で最も高く、次いで「メーカーで回収や処理費用の負担」が26.8%で続いています。

図 国やメーカーに望むこと



4-4 ごみ出しの頻度（問20）

『もやせるごみ』は「週3回」と「週2回」で6割以上を占める。

各家庭でごみや資源物を、どのくらいの頻度で出しているか、たずねました。

その結果、『もやせるごみ』は「週3回」が32.2%、「週2回」が31.0%をあわせると6割以上です。また、『うめたてごみ』は「3ヶ月1回」が21.2%で、「それ以下」も33.4%で比較的高い割合です。

さらに、『ペットボトル』は「月2回」が20.2%、「月1回」が19.1%、「それ以下」も25.0%ですが、「ほぼ毎日」の3.7%と「週1回」の22.3%をあわせると26.0%に達し、各家庭においてごみ出しの頻度にばらつきがみられます。

表 ごみ出しの頻度

回答者総数 = 575人

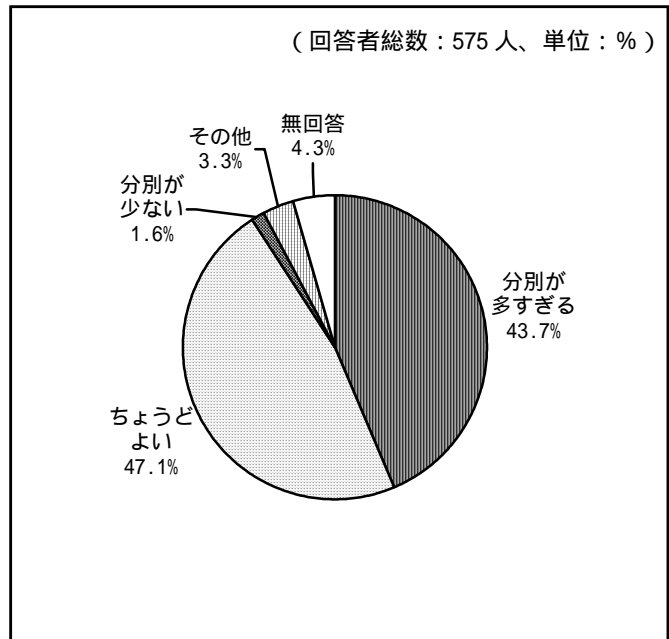
項目	選択肢					無回答
	週3回	週2回	週1回	月2回	それ以下	
ア．もやせるごみ	32.2	31.0	23.8	5.6	2.6	4.9
イ．うめたてごみ	7.1	14.3	14.6	21.2	33.4	9.4
ウ．びん	9.7	23.1	23.7	22.3	15.7	5.6
エ．カン	16.0	28.7	24.2	15.0	10.6	5.6
オ．その他プラスチック製容器包装	20.9	8.7	22.1	25.7	15.1	7.5
カ．その他紙製容器包装	9.0	6.4	17.2	31.3	25.7	10.3
キ．古紙類等	56.5	12.2	4.9	1.9	15.3	9.2
ク．ペットボトル	3.7	22.3	20.2	19.1	25.0	9.7
ケ．廃食用油	7.8	7.5	7.0	5.9	58.8	13.0
コ．廃蛍光管	2.6	2.1	5.0	6.6	73.6	10.1
サ．廃乾電池	2.3	0.9	4.9	9.7	73.9	8.3
シ．粗大ごみ	3.7	1.2	3.5	6.4	75.7	9.6

4-5 ごみの分別について（問 21）

「ちょうどよい」が約5割を占める一方で、「分別が多すぎる」も4割以上。

現在、ごみは12分別になっています。
 ごみの分別についてたずねたところ、「ちょうどよい」が47.1%を占める一方で、「分別が多すぎる」が43.7%に達しています。

図 ごみの分別について



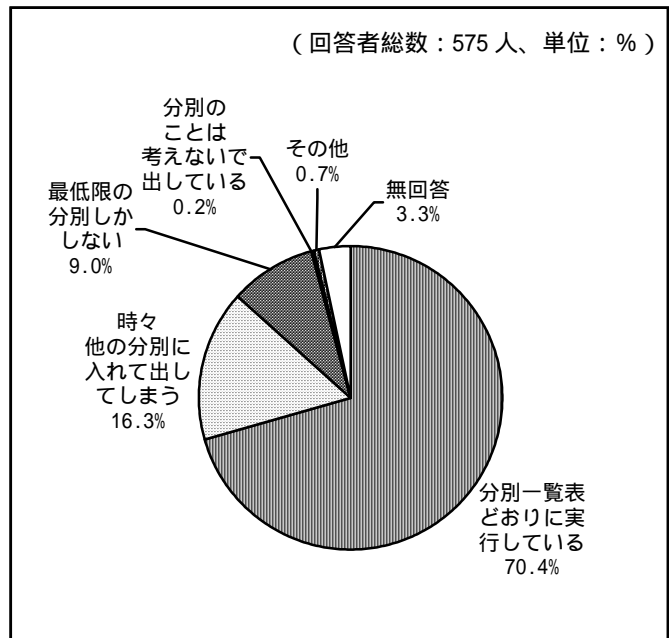
4-6 分別の実行度（問 22）

7割が「分別一覧表どおり」とする一方で、「時々、他の分別に入れて出してしまう」も約2割を占める。

各家庭において、分別がどの程度実行されているかたずねたところ、「分別一覧表どおりに実行している」が70.4%で多くを占めています。

また、「時々、他の分別に入れて出してしまう」が16.3%、「最低限の分別しかしない」が9.0%です。

図 分別の実行度



4-7 ごみの分別でわかりにくいもの（問23）

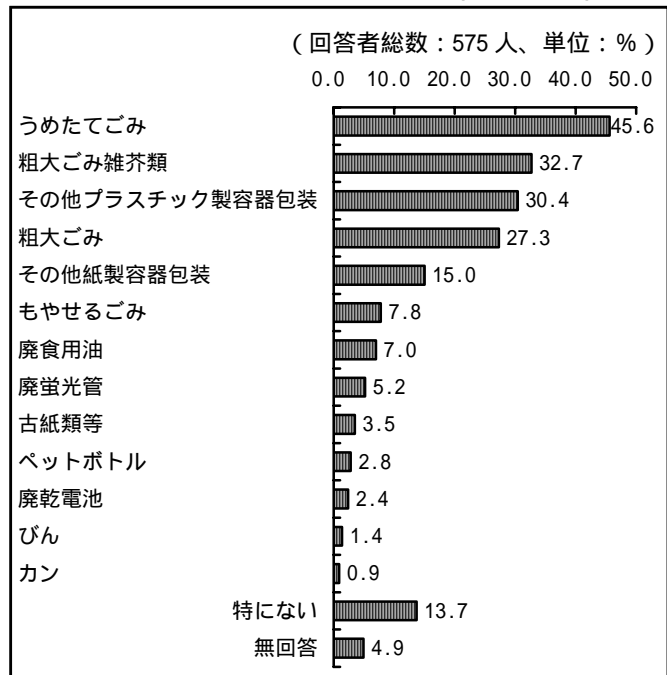
「うめたてごみ」が、やや高い。

ごみの分別でわかりにくいものをたずねたところ、「うめたてごみ」が45.6%で最も高くなっています。

次いで、「粗大ごみ雑芥類（粗大ごみの中の一項目）」が32.7%、「その他プラスチック製容器包装」が30.4%で続いています。

また、粗大ごみ雑芥類を除く「粗大ごみ」も27.3%です。

図 ごみの分別でわかりにくいもの（複数回答）



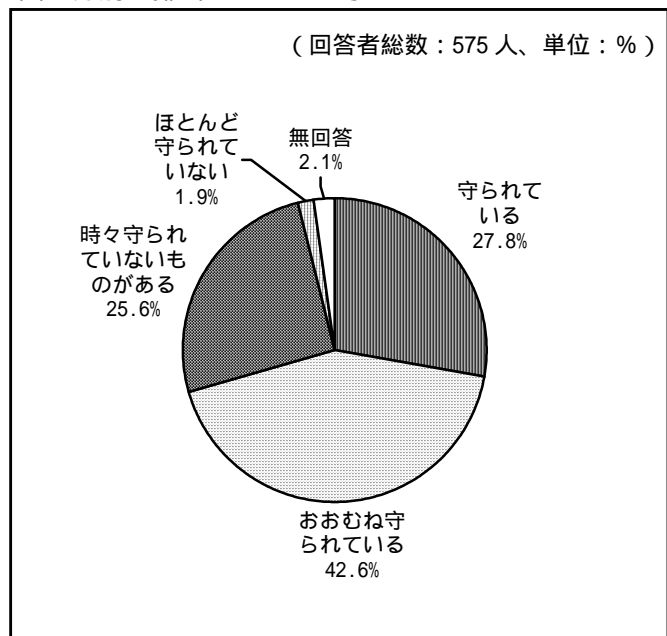
4-8 分別や排出のルールが守られているか（問24）

7割が“守られている”と回答。

住まいの地域のごみ集積所を見て、分別や排出のルールが守られているか、たずねたところ「守られている」が27.8%で、「おおむね守られている」の42.6%をあわせると“守られている”が70.4%を占めます。

その一方、「時々守られていないものがある」が25.6%、また、「ほとんど守られていない」も1.9%です。

図 分別や排出のルールが守られているか



4-9 守られていない内容（問25）

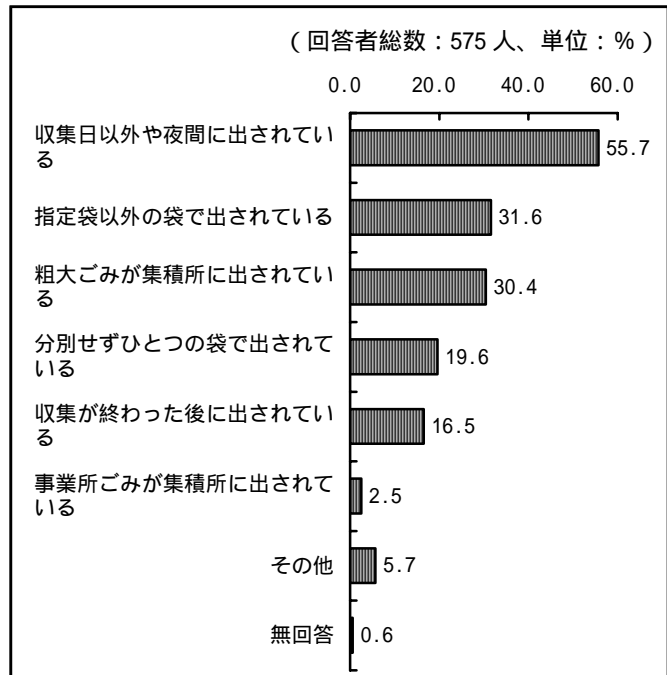
ごみが「収集日以外や夜間に出されている」が半数以上。

地域のごみ集積所において、ごみの分別や排出のルールが「時々守られていないものがある」あるいは「ほとんど守られていない」と回答した人に、守られていない内容をたずねました。

その結果、ごみが「収集日以外や夜間に出されている」が55.7%で最も高くなっています。

次いで、「指定袋以外の袋で出されている」が31.6%、「粗大ごみが集積所に出されている」が30.4%で続いています。

図 守られていない内容(複数回答)

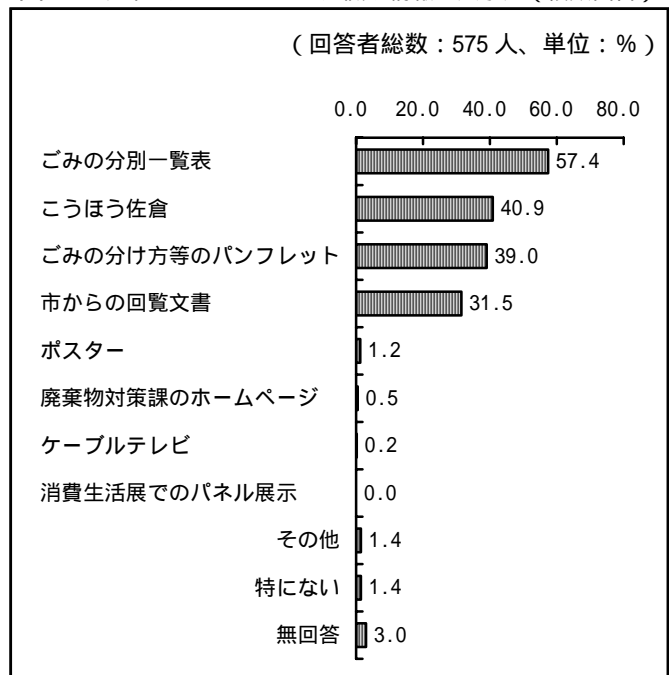


4-10 ごみ出しやリサイクルの知識や情報の入手先（問26）

「ごみの分別一覧表」や「こうほう佐倉」、「ごみの分け方等のパンフレット」が高い。

ごみの出し方やリサイクルに関する知識や情報の入手先をたずねたところ、「ごみの分別一覧表」が57.4%で最も高く、次いで「こうほう佐倉」が40.9%、「ごみの分け方等のパンフレット」が39.0%で続いています。

図 ごみ出しやリサイクルの知識や情報の入手先(複数回答)



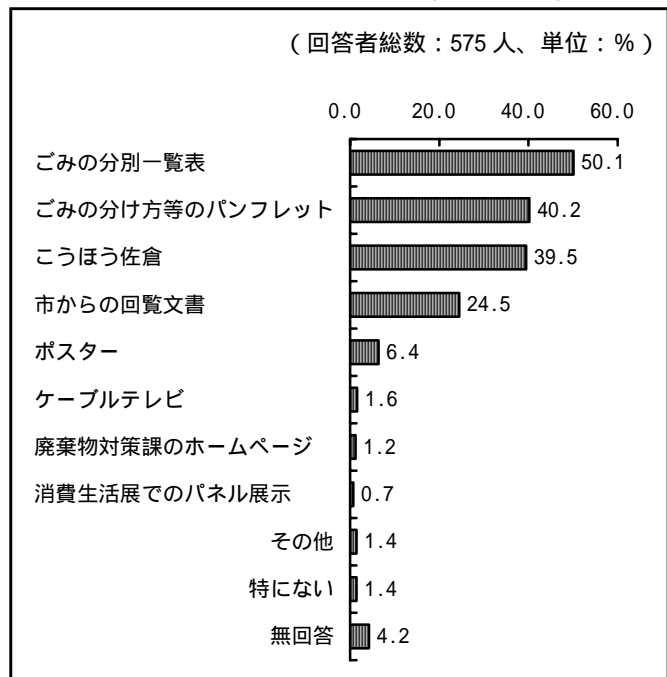
4-11 ごみに関する情報の周知方法（問27）

現状における情報の入手先とほぼ同様。

ごみに関する情報について、どのような周知方法がよいと思うかたずねたところ、「ごみの分別一覧表」が50.1%で高く、次いで「ごみの分け方等のパンフレット」が40.2%、「こうほう佐倉」が39.5%で続いています。

ごみの出し方やリサイクルに関する知識や情報の入手先の現状とほぼ同様の傾向です。

図 ごみに関する情報の周知方法（複数回答）

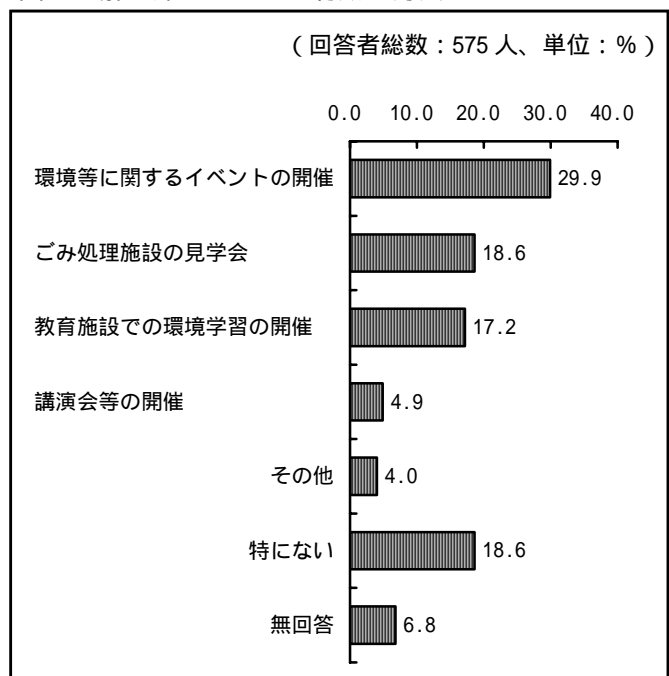


4-12 理解を深めるために有効な方法（問28）

「環境等に関するイベントの開催」が3割。

ごみ問題の理解を深めるために有効な方法については、「環境等に関するイベントの開催」が29.9%で高く、次いで「ごみ処理施設の見学会」が18.6%、「教育施設での環境学習の開催」が17.2%で続いています。

図 理解を深めるために有効な方法



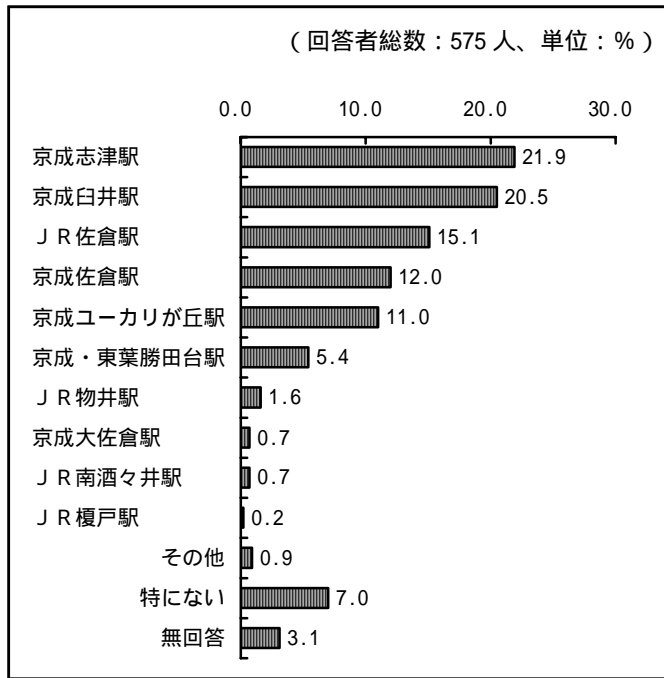
第5節 日常の買い物について

5-1 普段利用する駅（問29）

「京成志津駅」と「京成臼井駅」がともに2割ずつ。

通勤・通学・買い物等で普段利用する鉄道駅をたずねたところ、「京成志津駅」が21.9%で高く、次いで「京成臼井駅」が20.5%、「JR佐倉駅」が15.1%が続いています。

図 普段利用する駅



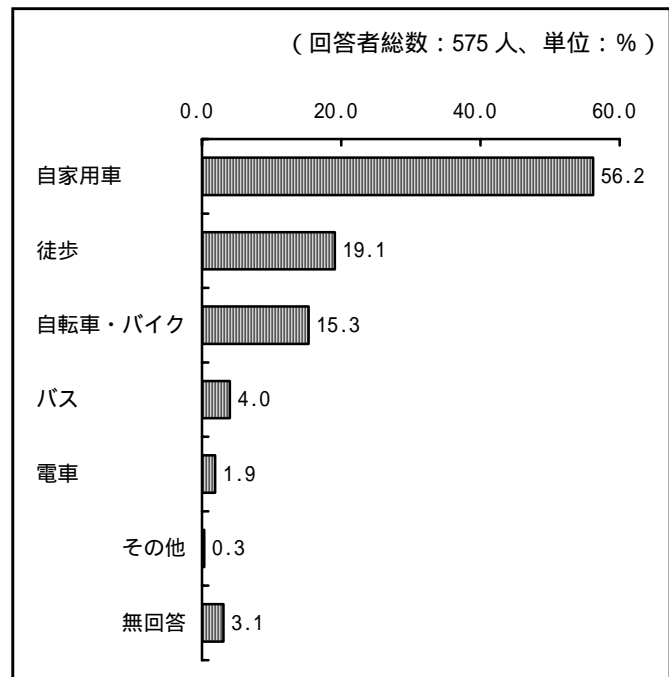
5-2 日常の買い物に利用する交通手段（問30）

「自家用車」が約6割で、特に高い。

日常の買い物に利用する主な交通手段をたずねたところ、「自家用車」が56.2%で半数を超え特に高くなっています。

次いで、「徒歩」が19.1%、「自転車・バイク」が15.3%が続いています。

図 日常の買い物に利用する交通手段

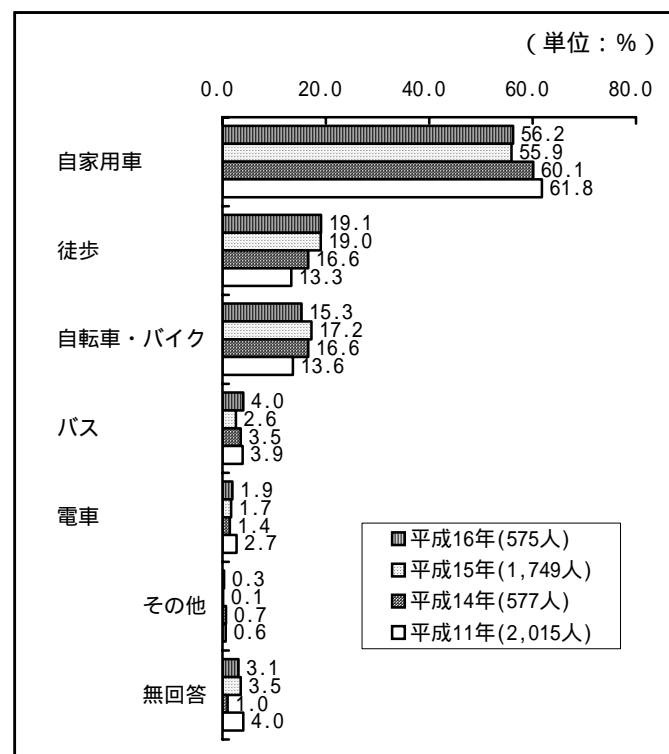


【時系列】

「自家用車」が減少、「徒歩」が増加。

時系列にみると、「自家用車」の割合が減り、「徒歩」の割合が増える傾向がみられます。

図 日常の買い物に利用する交通手段



5-3 商品の主な購入先（問31）

『野菜』、『魚』、『肉』などの生鮮食品等は、「佐倉市内」が8割以上。『高級衣料品』になると「千葉市」及び「船橋市」、「東京都」がともに2割程度で高くなる。

次の商品等について、主な購入先をたずねたところ、『野菜』、『魚』、『肉』、『その他の食料品』などの生鮮食品等は、「佐倉市内」が8割以上に達しています。また、『日常衣料品』は「佐倉市内」が6割を占めますが、『高級衣料品』になると約2割に減少し、「千葉市」及び「船橋市」、「東京都」がともに2割程度で高くなります。

表 商品の主な購入先

回答者総数 = 575 人

項目	佐倉市内	千葉市	船橋市	習志野市	成田市	八千代市	四街道市	八街市	酒々井町	印旛村	東京都	その他	無回答
ア．野菜	86.3	0.2	0.0	0.0	0.2	2.6	1.2	2.3	1.2	0.2	0.0	1.7	4.2
イ．魚	85.7	1.4	0.3	0.0	0.5	2.6	1.0	1.9	1.4	0.0	0.0	1.6	3.5
ウ．肉	85.4	0.7	0.3	0.0	0.5	2.4	1.2	2.1	0.9	0.0	0.0	2.6	3.8
エ．その他の食料品	83.5	1.4	0.3	0.0	0.9	2.3	1.4	2.6	1.0	0.0	0.2	2.6	3.8
オ．日用雑貨	79.7	1.2	0.9	0.0	1.4	4.3	1.2	3.0	0.7	0.2	1.2	2.4	3.8
カ．日常衣料品	60.3	6.4	5.6	0.2	4.0	5.6	1.2	1.2	0.7	0.0	7.0	3.1	4.7
キ．高級衣料品	17.0	22.8	19.1	0.2	1.7	1.7	0.2	0.2	0.3	0.0	21.0	6.4	9.2
ク．家具	40.7	12.7	2.8	1.2	7.0	6.4	0.5	0.7	0.3	0.0	7.8	9.6	10.3
ケ．家電製品	58.6	6.6	0.9	0.3	4.9	8.9	0.2	0.7	5.6	0.0	4.2	4.9	4.3
コ．本・CD	70.6	5.2	1.7	0.3	0.5	3.1	0.5	0.7	0.2	0.0	6.6	3.0	7.5
サ．スポーツ用品	46.4	9.0	5.4	1.9	4.5	6.8	0.5	0.5	0.3	0.0	5.7	7.1	11.7
シ．贈答品	42.1	17.2	11.3	0.0	1.7	2.6	0.5	0.9	0.2	0.0	11.8	6.6	5.0

5-4 市内での商品の購入先（問32）

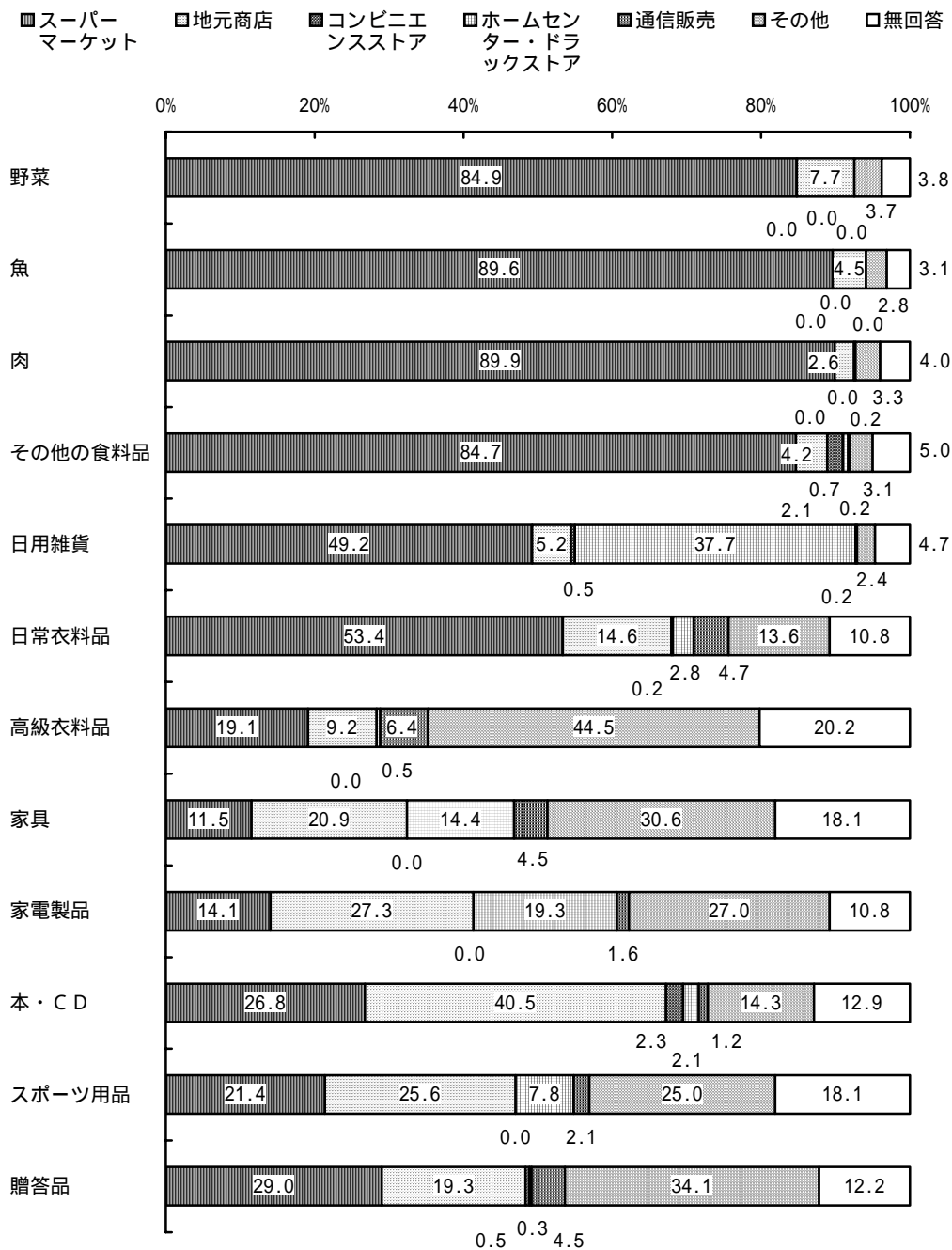
生鮮食品等は、「スーパーマーケット」が大半を占める。一方、「地元商店」は『本・CD』が4割、『家電製品』や『スポーツ用品』が約3割で比較的高い。

主な購入先の選択肢と同様に、次の商品等を佐倉市内で購入する場合の購入先をたずねたところ、『野菜』、『魚』、『肉』、『その他の食料品』などの生鮮食品等は、「スーパーマーケット」が8割以上で大半を占めています。

一方、「地元商店」は『本・CD』が40.5%で特に高く、『家電製品』や『スポーツ用品』も約3割に達し、比較的高くなっています。

図 市内での商品の購入先

（回答者総数：575人）

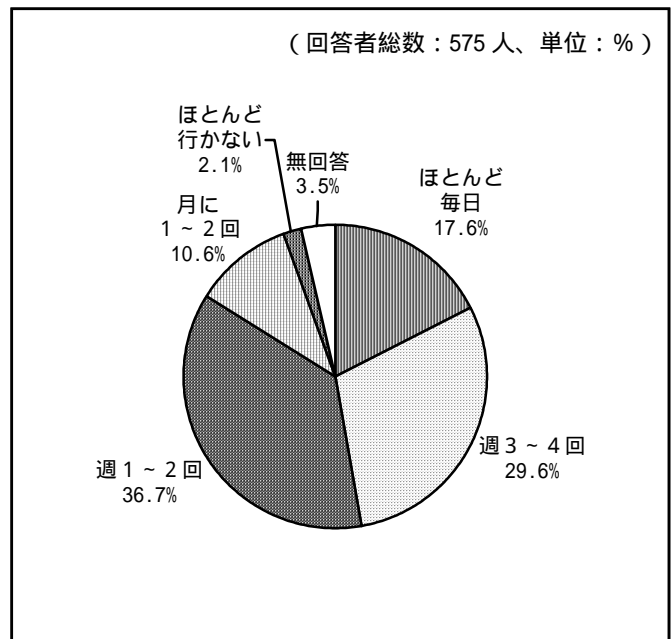


5-5 日常の買い物に行く頻度（問33）

「週1～2回」が約4割。

日用品の買い物に行く頻度をたずねたところ、「週1～2回」が36.7%で高く、「週3～4回」が29.6%で続いています。
また、「ほとんど毎日」が17.6%です。

図 日常の買い物に行く頻度



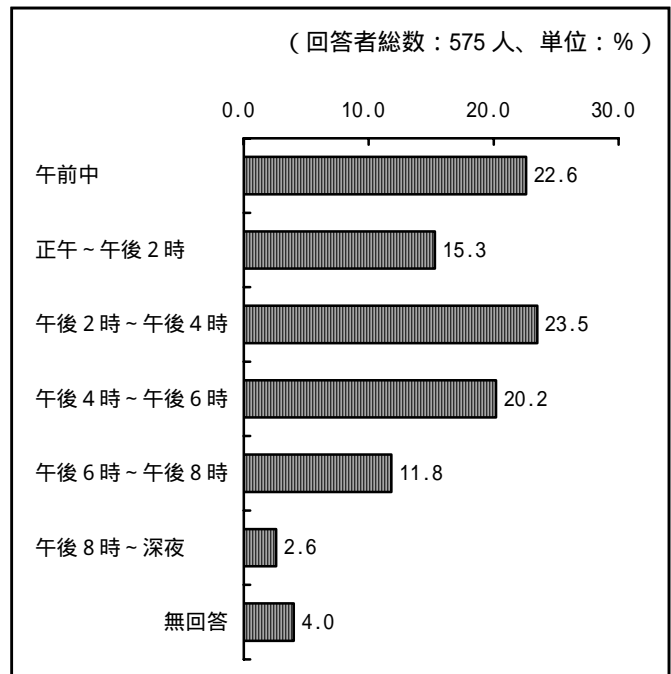
5-6 日常の買い物に行く時間帯（問34）

「午後2時～午後4時」が、やや高い。

日用品の買い物に行く時間帯をたずねたところ、「午後2時～午後4時」が23.5%でやや高く、次いで「午前中」が22.6%、「午後4時～午後6時」が20.2%です。

その一方、「午後8時～深夜」も2.6%います。

図 日常の買い物に行く時間帯



5-7 近所にあると便利な商店（問35）

「生鮮食料品」が3割以上で高いものの、「特にない」も2割以上に達する。

住まいの近くにどのような業種のお店があると便利だと思うか（スーパー、コンビニ、デパートは除く）たずねたところ、「生鮮食料品」が34.4%で最も高くなっています。

次いで、「飲食店・食堂」が15.7%、「本・CD（レンタル含む）」が12.7%が続いています。

その一方で、「特にない」が24.5%に達しています。

図 近所にあると便利な商店（複数回答）

